



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和7年2月28日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和6年度 第11号

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

鈴谷小Webページアドレス

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



利他の心で

校長 中田 清人

鈴谷小学校に赴任した令和4年度4月の学校だよりに、私は次のように書きました。

私は、教員になりたての頃から、子どもたちの教育に対して変わらぬ思いをもち続けています。それは、「私の教え子の幸せが、私の幸せである」という信条です。それは、校長となった今でも変わりません。

令和5年度10月号ではこうです。

学校は、家庭や地域と共通の目的をもっています。それは、鈴谷の地域に住む子ども達に健やかに育ててほしいということ、幸せになってほしいということです。地域の皆さん、保護者の皆さんにとっての利便性が上がることや地域の皆さん同士が顔なじみになることは、コミュニティを充実させる大変価値のあることであり、それは最終的には子ども達を育てるという共通の目的につながっていくものと考えています。

着任後3年が経とうとしている今、振り返ってみますと、これらの私の考えは、具現化しているものがいくつもあることに気付かされます。

まずは、手前味噌ですが、本校の教職員によって具現化されています。私は、毎日、教職員の授業や仕事ぶりを見ていますが、どの教員も工夫や努力を惜しまず、強力なチームワークがあり、校長の思いや示したビジョンをそれぞれの立場で受け止め、「子ども達の幸せ」の実現を自分のものとして力を尽くしてくれています。「授業者」「学級担任」としてなら、かつての私の力量をはるかに超える実践者ばかりです。校長として、大変誇りに思います。

次に、保護者の皆さんです。例えば「防災サバイバル」「すずや祭」は、「子ども」を真ん中に置き、「子どもの幸せ」の実現に向けた主体的な協働の象徴と言えると思います。それだけではありません。日頃から、図書ボランティアさんや学習支援等で子ども達の支援に当たっていただいている方も大勢いらっしゃいます。この方々も「子どもの幸せ」という学校と共通する目標に向けて主体的に活動してくださっています。大変ありがたいことです。

最後に、地域の皆さんです。自治会や育成会、NPOや商店、学生、防犯ボランティア等、様々なお立場から、「子ども達の幸せや成長」を願い、手を貸してくださっている。学校がこうした皆さんの集う拠点「この指とまれ」になることも私の目標の一つでした。

現在、この目標は皆様のお陰で、ある程度達成できたと言えますが、引き続き持続させたり改善を加えたりしていくことが必要です。学校では2月20日に学校運営協議会を開催し、次年度に向けたビジョンを共有しました。ここで、次年度の学校経営の方向性として、私が掲げたのは「利他の精神でWell-being(幸せ)を保障する教育の実現を目指す」という経営方針です。学校・家庭・地域が、「子どもの幸せ」を実現するという引き続きの目標を、学校運営協議会委員の皆さんと共有しました。「利他の精神」を付け加えたのは、これまで私たちが行ってきた行動や考え方の判断基準を他者(相手)に置く「利他」を、明確に経営方針に位置付けたいと考えたからです。こうすることで、相互に協力・協働する仕組みをより印象付けられると考えました。この考え方を進めるための経営戦略を「鈴谷小 トモダチ作戦」と名付け、保護者の皆さん、地域の皆さんと手を取り合って推進していきたいと考えています。これからも、どうぞよろしくお願いたします。